

普及技術

平成 24 年度

イネ墨黒穂病に対する薬剤の防除効果		
[要約] <u>イネ墨黒穂病</u> に対し、 <u>メトミノストロビン 15%粒剤</u> 、 <u>メトミノストロビン 4%粒剤</u> 、 <u>シメコナゾール 1.5%粒剤</u> 、 <u>銅粉剤 DL</u> 、 <u>チオファネートメチルゾル</u> を散布するとイネ墨黒穂病の発病が抑制される。		
農業総合研究所作物研究センター 栽培科	連絡先	TEL 0258-35-0836 FAX 0258-35-0021

[背景・ねらい]

農産物検査においてイネ墨黒穂病による玄米の汚損が確認されると規格外となる。イネ墨黒穂病による規格外が糯品種「わたぼうし」を中心に、平成 20 年産米で 882 t、平成 21 年産米で 478 t 発生し、大きな問題となった。そこで、イネ墨黒穂病防除に有効な薬剤とその散布時期を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 イネ墨黒穂病に対する薬剤の防除効果は、メトミノストロビン 15%粒剤 \geq 銅粉剤 DL、メトミノストロビン 4%粒剤 $>$ シメコナゾール 1.5%粒剤、チオファネートメチルゾルの順に高い(図 1)。また、フェリムゾン・フサライド水和剤、フロアブルの防除効果はこれらの薬剤より低く、イネ墨黒穂病を主たる防除対象とした防除では使用しない。
- 2 メトミノストロビン 15%粒剤は出穂期 30 日前 \sim 10 日前、銅粉剤 DL は出穂期 24 日前 \sim 10 日前、チオファネートメチルゾルは出穂期頃に散布する(図 2)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 平成 24 年 2 月 29 日現在、メトミノストロビン 15%粒剤、銅粉剤 DL の農薬使用基準は出穂 10 日前までであり、基準を厳守する。そのため、幼穂形成期の確認等により出穂期を的確に予測し、出穂期の変動に対応できるよう早めに散布する。
- 2 多発生条件では薬剤防除しても発病抑制が十分でない場合がある。その際、発病の少ないほ場の籾とは別に収穫、乾燥、調製する。

[具体的データ]

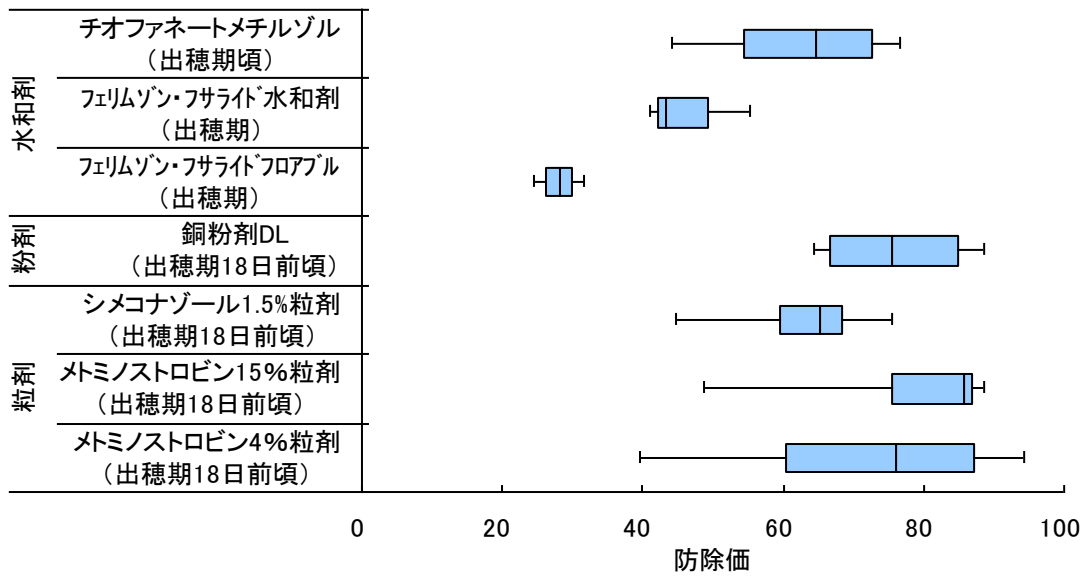


図1 イネ墨黒穂病に対する薬剤の防除効果

注1) 箱は第1四分位点及び第3四分位点、箱中の線は中央値、ひげは最小値と最大値を表示。

注2) 防除価は株あたり発病粒数より次式により算出した。

$$\text{防除価} = 100 - \text{薬剤処理区の発病粒数} / \text{無散布区の発病粒数} \times 100$$

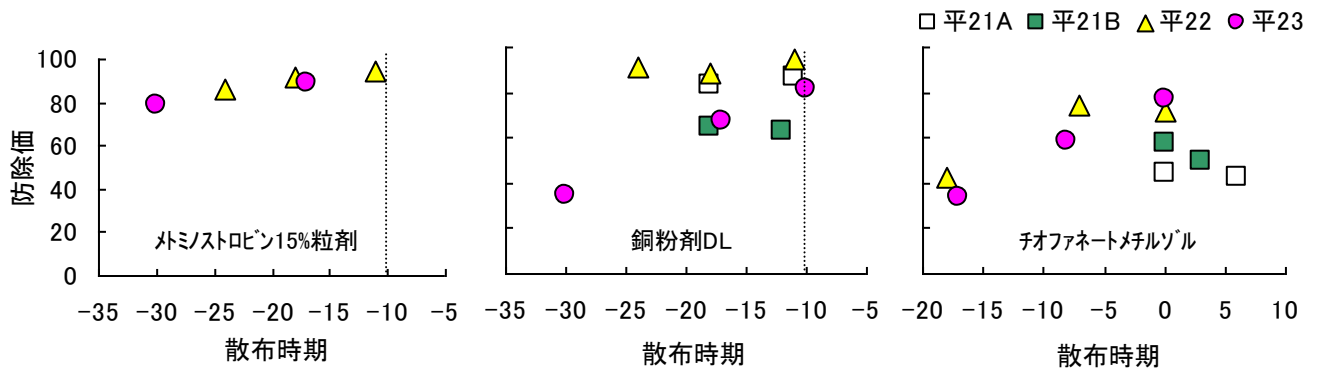


図2 薬剤の散布時期と墨黒穂病の防除効果

注1) 散布時期は出穂期を0として示した。

注2) 点線は農薬使用基準、防除価の算出法は図1と同じ。

[その他]

研究課題名：

- 1) 新たな栽培環境に対応した稲・大豆病害虫の発生予察技術、防除技術の開発
- 2) 墨黒穂病の発生抑制技術の開発
- 3) イネ墨黒穂病に対する薬剤散布適期の検討と現地実証

予算区分：1) 県単経常、2) 国委、3) 国委

研究期間：1) 平成21年度、2) 平成22年度、3) 平成23年度

発表論文等：なし